

「分かち合いの会・ひかり」

発行責任者：植村ヨシ子

編集：京井幹男

発行日 2024年1月

No. 11

講話会 鍋島直樹先生（龍谷大学文学部真宗学科教授）

『自死を見つめて—死と大いなる慈悲』

愛する人を失い、自己を喪失していく悲しみの中で、人はうずくまる。誰にも代わってもらえない一人ひとりの苦悩に向き合い、一生懸命にいのちを生きる道をとともに探す。

著書：「自死を見つめて」本願寺出版社刊、他。

（どなたでもご参加頂けます）

場所：「ステーションN」3階

参加費：無料

日時：2024年1月20日（土）午後2時



分かち合いの会・ひかり in 豊中（定例会・毎月第二土曜日）
場所：豊中市立市民病院の先生公益活動センター

分かち合いの会・ひかり in 池田（定例会・毎月第三土曜日）
場所：「ステーションN」3階

いずれも午後2時から・事前申込み不要・参加費無料

問い合わせ先：植村ヨシ子（代表） 電話080-3858-2954

みんなで話そう

「完璧な人なんていない」

職業柄、色んな相談を受けます。私自身には解決策を提示する智恵など持ち合わせておらず、聴く事しかできないのですが、多くの人たちの悩み等を聴き、改めて、人間は皆、「凡夫（ぼんぶ）」なんだと気付きます。

「凡夫」という言葉は、浄土宗を開かれた法然上人がよく用い、浄土宗の考え方の根本をなす言葉です。「どんなに一生懸命頑張っても、仏様のように完璧にはなれない人」という意味ですが、比叡山で修行を積み、「智慧第一」と謳われた法然上人ですら、「三学非器（完璧になれない自分）」を自覚し、お念仏の道を歩みます。

「凡夫」の考え方は、「反省する教え」だと、よく言われます。自

らが至らない人間であると、謙虚な姿勢で反省する。反省できる人は、必ず、「こうなりたい」という希望の種、向上心を持っている。その種を、育ててゆくこと。いつまでたっても実現できない事は、たくさんあるかも知れませんが、でも、自身のベストを尽くして、日々精進し、やがて、先に往かれた人たちが迎えに来てくれた時には、「よく頑張ったね」と、できるだけ沢山、褒めて貰える毎日を、歩みたいものです。

西光寺住職 原 章人

（注）執筆にあたっては、前浄土門主、坪井俊英猊下の書籍等を参考にしています。

